

平成 29 年度 第 3 回 関西観光・文化振興計画検討委員会 摘録

平成 30 年 1 月 11 日 (木) 17:00~18:20
エル・おおさか (大阪府立労働センター)
本館 5 階 研修室 2

坂上座長

本日は第 3 回目の検討委員会であり、今回の計画改定に当たって最終となるので計画案について最終点検という視点で行っていただきたい。

橋爪委員

国内観光が減少傾向にあり国内観光振興が重要になる中で、文化振興の対象もインバウンドのように読める。

サブタイトルは『「アジアの文化観光首都」を目指して』としているが、既に「アジアの文化観光首都」であると言い切ってもいいのではないかと。

塩見委員

アジアの文化観光首都を「目指す」のであれば、何を達成すれば「アジアの文化観光首都」と言えるのか明確にする必要がある。

宿泊施設不足への対応のところは、宿泊業界全体の健全な発展に資するような情報発信等を行う、といった表現がいいのではないかと。

廣岡委員

アジアの文化観光首都はあくまでも概念であり、目指すのではなく、そういった状態を維持するという表現が良い。

京阪神以外の地域では交通手段の確保が課題であり、路線バスを使いやすくするような工夫が必要である。

文化というコンテンツを VR 等の技術を使って国際観光につなげていくようなモデル事業があると良いと思う。

古川局長

計画上では淡白な表現としているが、実際の事業としては、VR の活用等についても実施していく方針である。

橋爪委員

次の計画時には I o T や自動運転技術の活用はかなり進行していると思うので、今の計画でも頭出しをしてはどうか。

文化的価値の再発見等のところで、戦後の建築物やカルチャーなどがいずれは歴史的資産になっていくという意識を共有することは大切。

旅行消費額拡大の取組のところで、旅行消費単価を上昇させるのであれば、ラグジュアリー層の取り込みなど、それに見合った文言が必要である。

河内委員

文化についての記述は地方創生に終始しているので、インバウンドを意識した表現が盛り込まれると良い。

坂上座長

文化振興とインバウンドとの考え方については、冒頭の橋爪委員の意見とも合わせて整理してはどうか。

橋爪委員

「はじめに」のところの表現を工夫すれば良いと思う。

新技術の活用について、安全体制の確立に限定されているが、あらゆるテーマで受け入れるようにしていくべき。

サブタイトルは、「目指す」を残すのであれば、「世界の文化観光首都」と言い切りたい。

山本参事

インバウンドの予想以上の拡大や文化庁の移転など、計画を策定した当時とはかなり異なった状況が生じている。

古川局長

関西への誘客について、アジア中心から世界へと軸足を変えるのであれば「世界の文化観光首都」という表現もあり得ると思う。

坂上座長

この場では結論が出ないと思うので、事務局には、ご意見をふまえた案の取りまとめをお願いします。

消費額拡大のところでは、やはり経済効果が大きく、関西のブランド化にもつながるショッピングが重要ではないか。

塩見委員

ショッピングについても、関西でつくられたものを買ってもらうことこそが、関西のブランド化に繋がり、伝統産業の発展にもつながる。

山本参事

農林水産・産業など、広域連合の他の分野とも連携してやっていきたい。

橋爪委員

今回の計画とは別だが、今後の中長期の考え方として、既存の文化施設改修の推進は課題である。

廣岡委員

スポーツツーリズムのところで、国内の「観るスポーツ」を継続的に確立さ

せていくことも記載しても良いのではないか。若い男性は出国率が低い、スポーツを通じて相互の交流が可能になると思う。

橋爪委員

スポーツツーリズムの幅を、もう少し広げても良いと思う。

廣岡委員

文化の面での国際連携として、中国や韓国と協力し、「東アジアの文化」として欧米に売り出していくことも考えられる。

河内委員

今後は、外国人向けの文化資源を開発していくことにも踏み込んでいく必要がある。現にOSK（大阪松竹歌劇団）が外国人向けに日本情緒をアピールするレビューを始めている。源氏物語などは一度も来日したことがない文学者が翻訳して爆発的に広まった。それくらいのことをやらないと。

坂上座長

最終の確認は各委員にさせていただいて最終案の取りまとめとする。貴重なご意見ありがとうございました。

藤本参事

整理を行ったうえで最終案を広域連合の委員会で報告、3月の議会で承認いただく予定である。